

# 令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立三先小学校学校協議会

## 1 総括についての評価

- 本年度の学校の自己評価結果はおおむね妥当である。
- 今年度は、不登校児童の問題など現在学校が抱えている課題について、話し合うことができた。

## 2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

### 【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。  
【R7:83.9%(市83.0%)R6:79.8%(市81.5%)】
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。  
【R7:1.6% R6:0.6%】

#### 学校園の年度目標

- ・令和7年度末の校内アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「よく当てはまる(当てはまる)」と回答する割合を90%以上を維持する。  
【R7:94% R6:96%】
- ・令和7年度末の校内アンケートにおいて、「学校に行くのが楽しい」と回答する割合90%以上にする。  
【R7:90% R6:92%】
- ・令和7年度末の校内アンケートにおいて、「自分には、良いところがある」と回答する割合85%以上にする。  
【R7:86% R6:83%】

- 達成状況の評価に関しては妥当である。いじめがいけないことであるという意識が高まっている。不登校児童は他校と比べると少ないが、微増している。不登校については、原因がわかりにくく、早急な解決が難しい。保護者の考え方も家庭により違いがあるが、地域や関係諸機関と連携しながら、家庭とのつながりを切らさずに取り組んでいく必要がある。

### 【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。  
【R7年度対市平均：4年0.8P↑,5年1.2P↑,6年1.5P↓】  
【R6年度対国平均：4年0.07P↓,5年0.01P↓,6年0.04P↓】
- ・小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。  
【R7年度対市平均：4年2.1P↑,5年3.2P↑,6年0.3P↑】  
【R6年度対国平均：4年0.08P↓,5年0.03P↑,6年0.0P】

#### 学校園の年度目標

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と

回答する児童の割合を45%以上にする。

【R7年度:53.4%（肯定的：86.8%）（市41.6%） R6:38.5%（市：40.4%）】

- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合70%以上にする。

【R7年度:78.4%（市69.2%） R6:73.9%（市68.9%）】

- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。

【R7年度:92.1%（市75.9%） R6:73.9%（市68.9%）】

- 達成状況の評価に関してはおおむね妥当である。小学校学力経年調査の正答率が対全国比で昨年度と比較すると微増しているが、全国平均と比較するとまだまだ低い部分があるので、今後の指導に期待する。

### 【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- ・デジタル教材を活用した朝学習を週1回実施する。 【実施した】
- ・協同学習支援ツールを用いた学習を週1回実施する。 【1年生以外は実施した】
- ・教職員の年次休暇を10日以上取得する割合を90%以上にする。 【R7:100%】 【R6:100%】
- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を60%以上にする。 【R7:65.3%】 【R6:77.8%】

【基準1】 次の2点を両方とも満たす  
①45時間を超えない ②年間360時間を超えない

#### 学校園の年度目標

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 【R7:68.2% R6:25%】
- ・教員の児童・生徒のICT活用を指導する能力に対する肯定的な回答の割合を85%以上にする。 【R7:100% R6:100%】
- ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。 【R7:100% R6:100%】

- 達成状況の評価に関しては妥当である。学びにICT化することが必ずしも学力を上げることにつながらないのではないか。ICT機器を使うことで子どもの理解が深まる単元はどこなのかをしっかりと見極めて指導するようにしてほしい。教員の働き方改革も一定の成果を出している。今後も大変な業務の中であるが、できることから実施してほしい。

### 3 今後の学校園の運営についての意見

- 今年度は、学校協議会において、テーマを絞って話し合うことができた。来年度以降も学校が悩んでいたり困っていたりすることをテーマにして協議を持てるようにして、学校の助力になればとおもう。
- 全体的におおむね計画通り学校運営ができています。学力について、幼・小・中で連携して取り組んでほしい。